4－2　駿河湾南部の海底地形・地質構造について

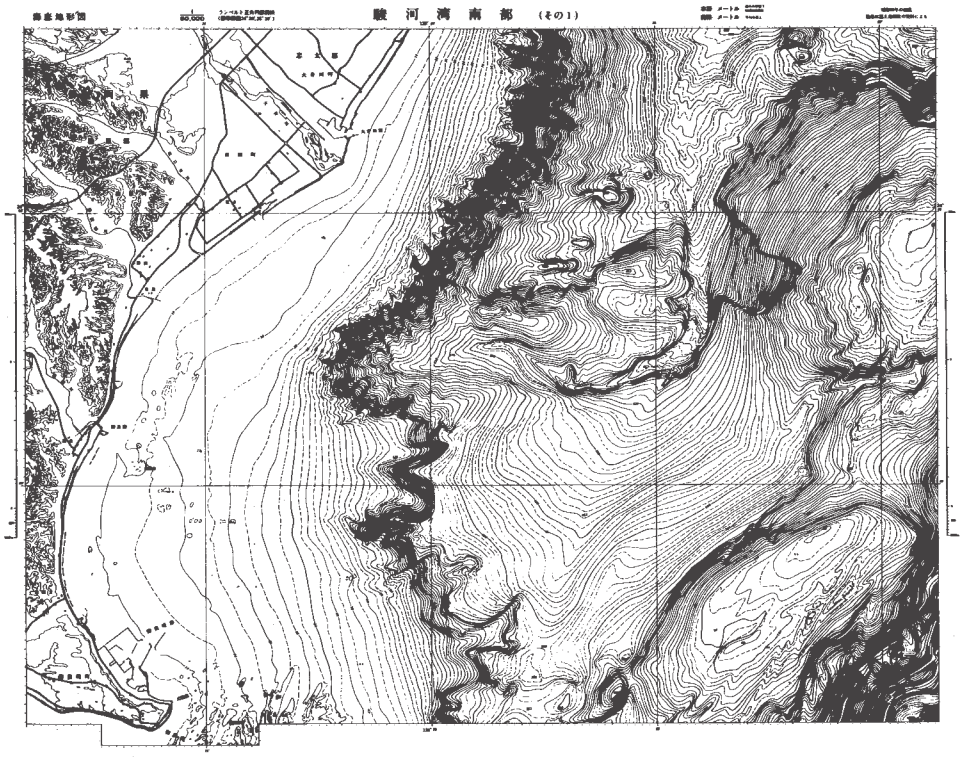
Submarine Topography and Geological Structure, Southward of the Suruga Bay

海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和53年8～11月に，東海地方の地形及び地殻構造の研究の一環として，駿河湾の海底地形・地質の調査を行ない，縮尺5万分の1の海底地形図，同地質構造図を作成した。この調査は昭和52年10～12月の駿河湾北部の調査に連続するもので，調査方法その他については，会報20巻133頁による（ただし基本水準面は御前崎験潮所による）。調査の結果から調査海域は御前崎側斜面，駿河トラフ底，伊豆半島側斜面に三分される。

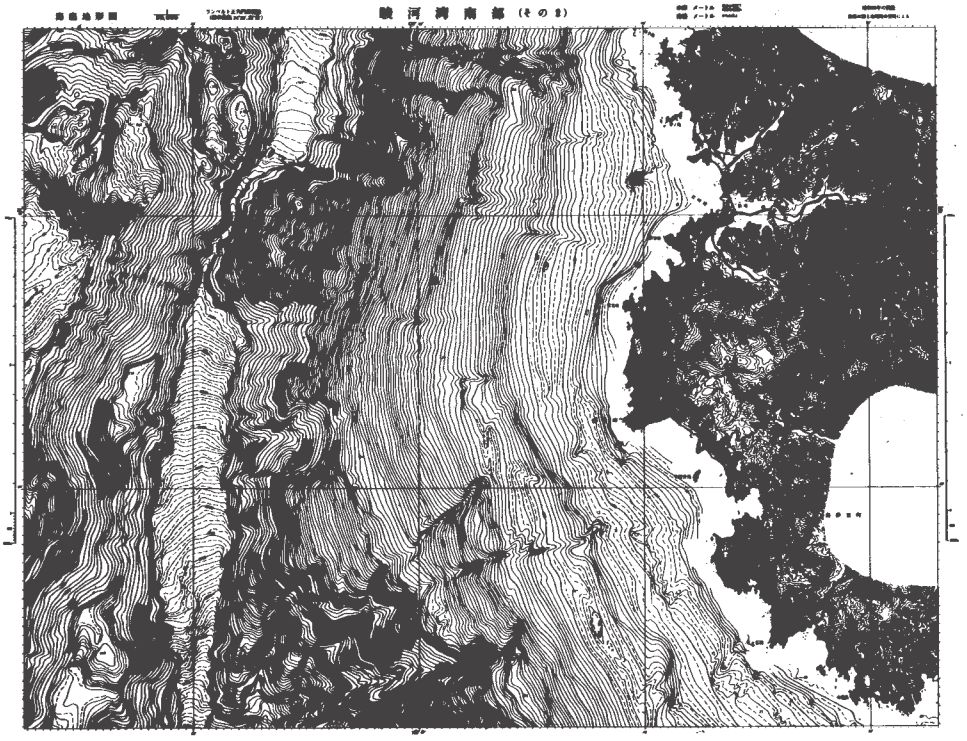
海底地形　　御前崎側斜面には石花海堆があり，北方へは隆起部として連続し，陸上の有度山の方向に連なる。石花海堆の西方は石花海海盆で，調査海域南縁付近をシルとして北に深くなる。大陸棚は海岸線ぞいと石花海堆に見られ，大陸棚外縁が小さな海底谷で蚕食された様に見える所は外縁水深が浅くなる傾向がある。石花海海盆には小さな谷が合流した大きな箱型の海底谷が北流し，石花海堆の北側で東流し，調査海域北縁付近で扇状地状に広がり駿河トラフ底に連ながる。石花海堆の東側斜面は，ほぼ平滑で平面的で，比高1500ｍ以上で，傾斜$^1/_2$に近い急斜面をなす所が多い。駿河トラフ底は平滑で，南から北へ順次浅くなる。幅3～4㎞で南北に走るが，松崎沖では幅1㎞以下の狭窄部となり，そこではトラフ底が3㎞近くも屈曲している。またこのトラフ底の延長部と思われるものが御前崎側斜面に見られる。伊豆半島側斜面には東西に走る海底谷を境に外縁水深の変わる大陸棚が見られ，これに接続する上部大陸斜面も平滑で，ほぼ平面的な部分が広く，その外縁は，大陸棚と平行して深度が変わる。下部大陸斜面は海底谷が多く発達する，トラフ底に連なる急斜面で，松崎沖の狭窄部へ伊豆半島側斜面が張り出していることと合わせて複雑な地形を示す。

海底地質　　御前崎側斜面では主に石花海海盆に北東－南西方向の断層褶曲が卓越し，最終的にこの構造により，石花海堆が形成されたと考えられる。石花海堆の東側斜面ではトラフ底の方向と平行な断層が顕著となる。駿河トラフ底には100ｍ以上の埋積があって，明瞭な変位は見られないが，両側斜面の側壁にはかなり乱れた記録が見られ断層の存在が推定される。伊豆半島側斜面の上部大陸斜面の構造は，下位層にほぼ平行して上位層が堆積して地形面となっており，乱れは少ない。褶曲構造はほとんど見られず，断層も上位層に及ぶものは少ない。断層の多くは北西－南東方向のものとそれに直交する方向のものである。　　（中嶋　逞）



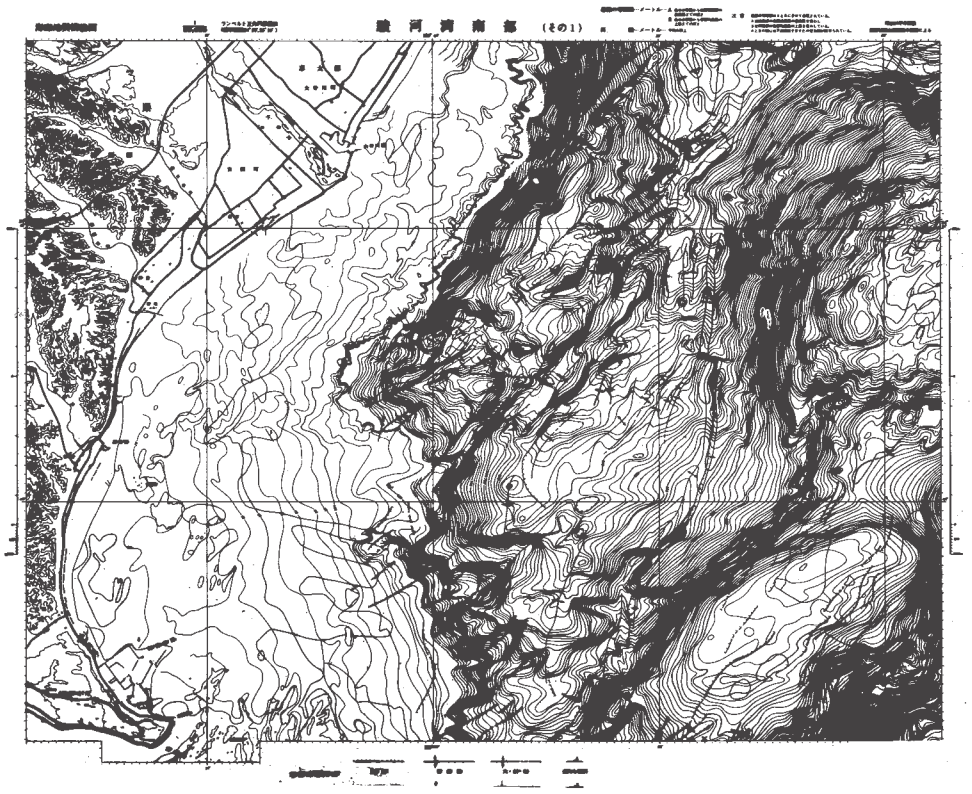
第１図　駿河湾南部海底地形図（その１）

Fig. 1　Bathymetry, southward of Suruga Bay (Part 1).



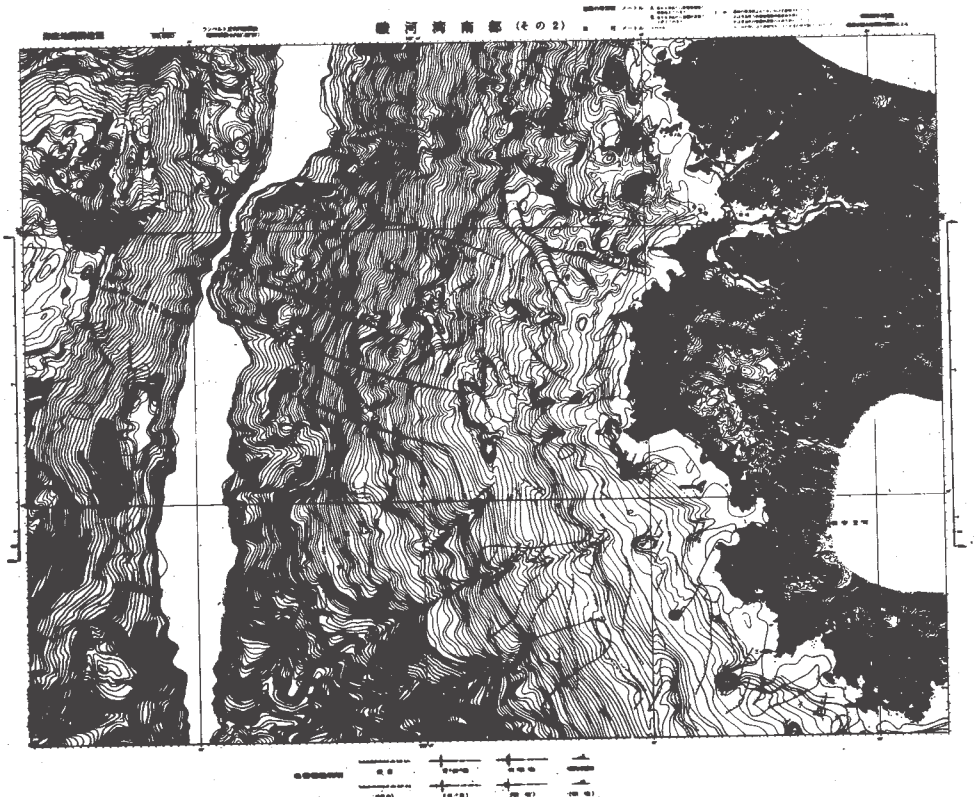
第２図　駿河湾南部海底地形図（その２）

Fig. 2　Bathymetry, southward of Suruga Bay (Part 2).



第３図　駿河湾南部海底地質構造図（その１）

Fig. 3　Geological structure, southward of Suruga Bay (Part 1).



第４図　駿河湾南部海底地質構造図（その２）

Fig. 4　Geological structure, southward of Suruga Bay (Part 2).